

防災と保健医療

～実装に向けた国際・学際連携のために～

令和4年10月23日

ぼうさいこくたい2022 東北大学セッション

「災害レジリエンスの実現に向けてー共創・国際・実装の取組み」

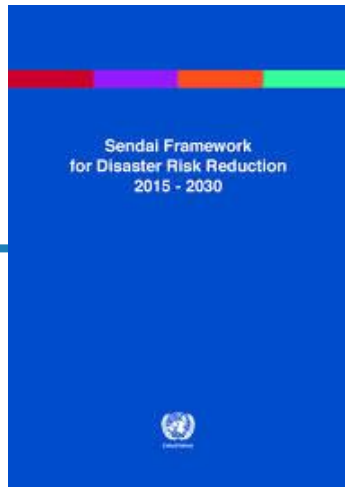
WHO健康開発総合研究センター 医官

茅野龍馬



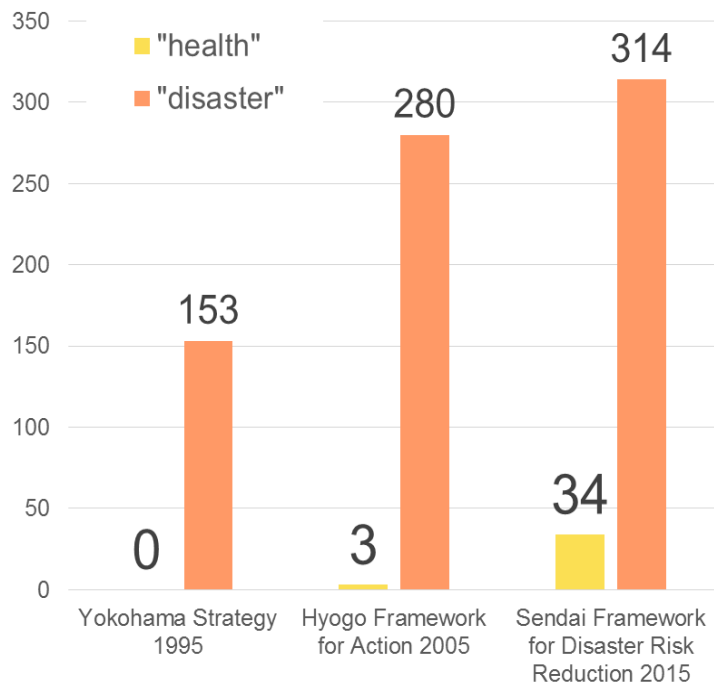
World Health
Organization

仙台防災枠組2015-2030 保健医療領域の役割の拡大



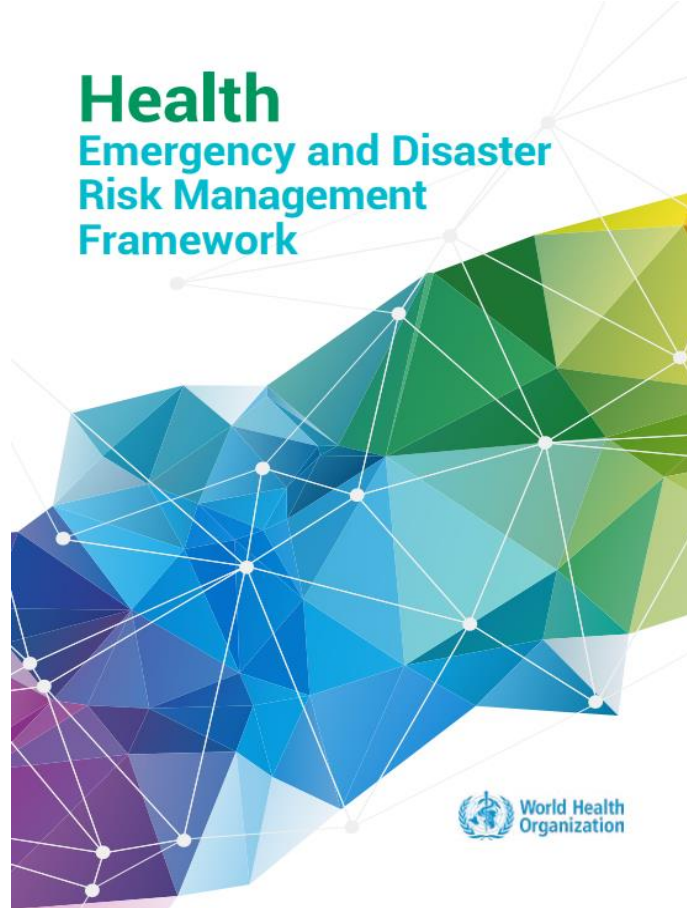
●期待される成果とゴール:

●人命・暮らし・健康と、個人・企業・コミュニティ・国の経済的・物理的・社会的・文化的・環境的資産に対する災害リスク及び損失を大幅に削減する



World Health
Organization

防災においてなぜ「保健医療」が重要なのか



- 「健康や人命、生活」は防災に関わる様々な分野の共通目標になり得る
- 「保健医療」は理系と文系をつなぐ学際研究や分野横断的活動の架け橋となる

WHO災害・健康危機管理枠組2019

政策・事業と研究・エビデンス



防災に対するWHOの取り組み 学際連携、部門間連携、国際連携の促進



グローバルリサーチネットワークの組織運営 とWHO研究指針の策定

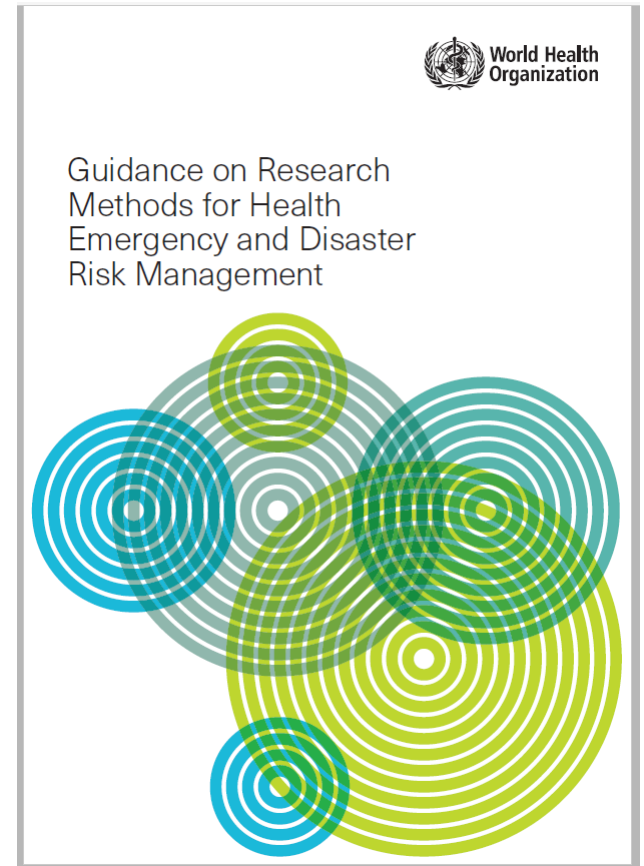
領域 1. 保健医療データの収集と管理

領域 2. メンタルヘルスと心理社会支援(MHPSS)

領域 3. 災害弱者対策

領域 4. 保健医療人材育成

領域 5. 研究手法の標準化と倫理課題対策



災害・健康危機管理の研究手法に関するWHOガイダンス

WHO健康開発総合研究センター



世界で唯一のWHO本部直轄の政策研究センター
災害・健康危機管理に関するWHOグローバルリ
サーチネットワークの事務局

実装研究の重要性と高まる学際研究への期待 保健医療領域のエビデンスの進歩の紹介

領域1. 保健医療
データの収集と
管理

領域2. メンタル
ヘルスと心理社
会支援(MHPSS)

領域3. 災害弱者
対策

領域4. 保健医療
人材育成

領域5. 研究手法
の標準化と倫理
課題対策

エビデンスの進歩と実装への課題

1. データ収集法の標準化と活用

2017: WHO緊急医療チーム
のデータ収集法の標準化

2018-22: 複数の災害・危機
で運用—多くの効用が証明

2023-: 災害弱者対策を含む
更なる標準化と運用

エビデンスの進歩と実装への課題

2. メンタルヘルスと心理社会支援

-2018: 急性期症状の報告と
初期対応の標準化

2019-22: 中長期影響と保護
的要因・リスク要因の特定

2023-: それらの要因の実装
の方法論の検討

エビデンスの進歩と実装への課題

3. 保健医療人材の育成と派遣

-2018: 各国各組織における
人材育成の開発と実践

2019-22: 人材育成の重点
項目と実践課題の同定

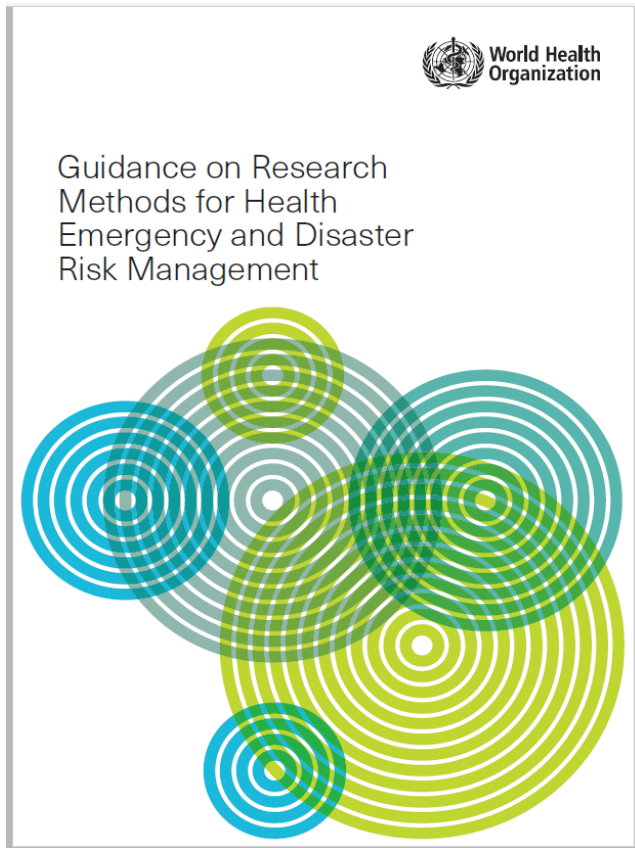
2023-: 各国各自治体にお
ける実装研究

※COVID-19に伴うスティグマと迫害 (2020年発行 WHOガイダンスより)

- 定義：ある特定の特徴をもつ個人や集団を、ある特定の病気と否定的に関連付けること
- その結果、特定の人々が疾患と直感的に結び付けられることによって、レッテルを張られ、差別を受け、社会的地位が損なわれる
- その対策には、保健医療の専門家に加えて、広報・報道の専門家など文理協働のアプローチが必要。

保健医療領域のエビデンスの進歩

4. 研究手法の標準化と革新



災害・健康危機管理の研究
手法に関するWHOガイダンス

- 世界164名の専門家と協力し、世界初の研究手法の手引きを作成：2021年10月に発行
- Living referenceとして適時更新：2022年10月にCOVID-19対応を含む章を加えて改訂
- 2023～：「学際研究の方法論」を実践事例を交えて紹介する章を追加予定

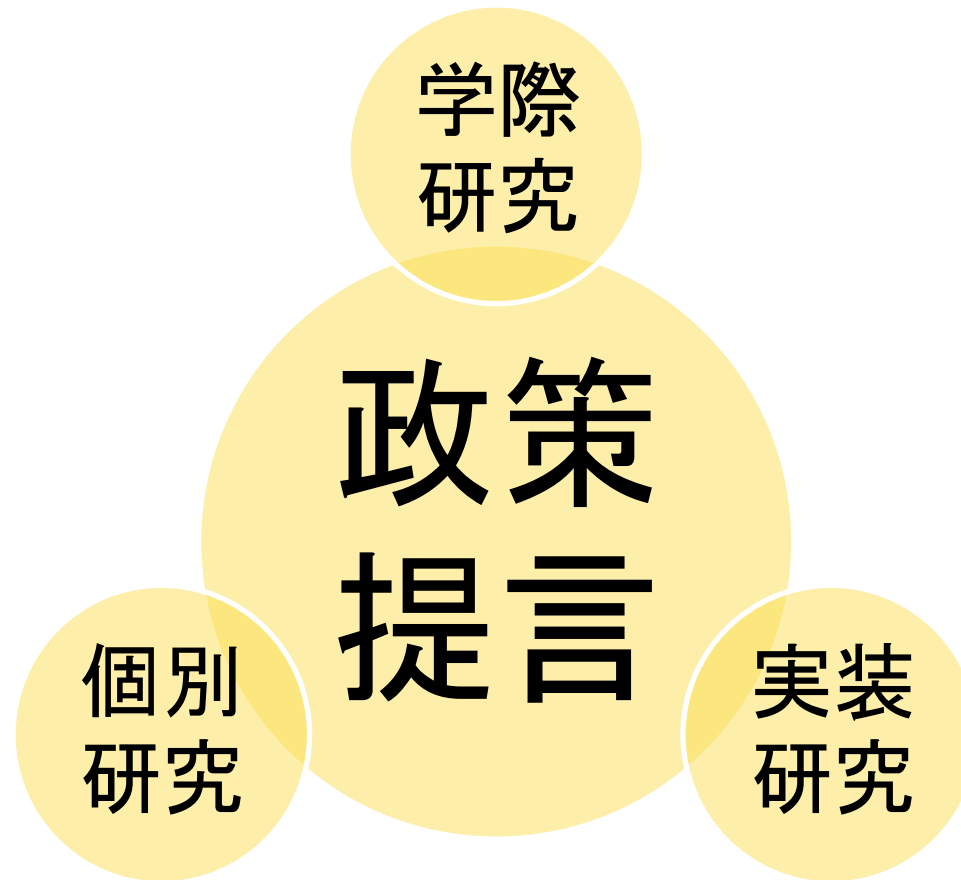
リサーチネットワークへのご招待

事務局：wkc_tprn@who.int



- QRコードを読み込んで氏名と所属を記入しメール送信。
- 登録フォームが返信されるので、記入後CVを添えて返信して登録完了。

部門・専門・国境をこえた連携を 具体的に実践していくメカニズムを



ありがとうございました

WHO健康開発総合研究センター
医官 茅野龍馬

